

S
U
G
I
N
A
M
I

90th



杉並区区制施行90周年記念誌



Introduction

未来へ継ぐ すぎなみ物語

杉並区には
積み重ねてきた90年の歴史があります
杉並の記憶を記録に刻み
語り継がれる物語を
未来につないでいきます

昭和7年（1932年）10月1日、
杉並町、和田堀町、井荻町、高井戸町が合併して杉並区が誕生しました。
区制施行90周年となる今年、区の歩みを振り返り、
先人が築いてきた今日の杉並区を未来に継承していきたいという思いを込めて、
この記念誌を編集いたしました。

巻頭には、90年の歴史の中でもとりわけ象徴的な5つのエピソードを掲載しました。
また、後半には、未来へ語り継ぎたい杉並の魅力を4つの切り口でまとめるとともに、
区民の皆さまから公募したお気に入りのスポットやイベントなどを
「すぎなみFAVORITE!」として紹介しています。

この記念誌が、杉並の素晴らしさをあらためて確認する一冊となり、
区民の皆さまが未来への新たな一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。

Contents

- 03 | 未来へ継ぐ すぎなみ物語
- 04 | Contents

- 05 | Suginami's Five Stories「継」～語り継ぐ五つの物語
- 06 | 第一話～内田秀五郎のしごと
- 08 | 第二話～原水爆禁止署名運動
- 10 | 第三話～東京高円寺阿波おどり
- 12 | 第四話～東京ごみ戦争
- 14 | 第五話～3.11 自治体スクラム支援等の活動

- 16 | すぎなみの歴史

- 24 | 語り継ぎたい杉並
- 26 | 語り継ぎたい杉並～みどり
- 28 | 語り継ぎたい杉並～にぎわい・祭り
- 30 | 語り継ぎたい杉並～歴史・文学
- 32 | 語り継ぎたい杉並～文化・サブカル
- 34 | 語り継ぎたい杉並～すぎなみFAVORITE!

- 35 | 未来へ継ぐ杉並～杉並区基本構想

- 40 | すぎなみPROFILE



杉並区区制施行90周年
特設サイトはこちら



Suginami's Five Stories

継

語り継ぐ五つの物語

90年の歳月はただ流れたのではなく
全て人が歩んだ積み重ねです。
限りない数の営みを振り返るとき、
区民の皆さんに語り継いでおきたい
五つの物語があります。



Suginami's Five Storiesの関連記事は、
すぎなみ学倶楽部でもご覧いただけます。



内田秀五郎のしごと

時代の風を読み、地域の未来に挑み続けた



内田秀五郎（前列左から3人目。井荻町土地区画整理組合の記念集合写真） 出典：井荻町土地区画整理組合「事業誌」

将来の都市化を見据えた、信念の“まちづくり”

暮らしやすいまち、杉並。今では当たり前を感じる、このまちの土台づくりに、およそ100年前に取り組んだ人がいます。井荻村の村長（のちに町長）だった内田秀五郎が始めた“まちづくり”は、地域の姿を大きく変えていきました。

畑仕事をしてから役場へ向かう、日本で一番若い村長

村長となったとき、秀五郎は30歳の若さ。杉並区は、まだ杉並・和田堀内・井荻・高井戸という4つの村でした。

「野菜や漬物を載せた荷車を、馬が市場へ運んでいく光景が、大正時代になっても見られたようです」

都市計画学の専門家で、秀五郎に詳しい高見澤邦郎さん（東京都立大学名誉教授）によれば、当

時の井荻村は、起伏のある農地の中をあぜ道がうねっていた農村地帯。村長自身が、まず畑で一仕事してから役場へ出かける毎日でした。

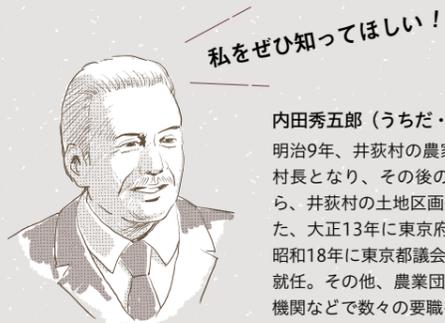
「雨が降ればぬかるんで苦勞する道に、砂利を入れて整備したので、道路村長とも呼ばれました」

秀五郎は、農民の暮らしを良くするために力を尽くし、村の予算の6割を教育にかけ、農業団体や信用組合もつくりました。

都市化が始まる前に、村全体を区画整理しておこう

大正も半ばになると品川や大森・蒲田など東京の南部では、ひと足先に都市化の波を受け、住宅や工場が建つようになってきます。

秀五郎は、横浜の保土ヶ谷町に仲間の村長たちと視察旅行に行ったことがありました。そこで区画整理が実施されているのを見て、「こんな遠くのまちでも…」と驚き、井荻村でもしっかり土地を整備しておかなければと、地域全体の区画整理を思い



内田秀五郎（うちだ・ひでごろう）
明治9年、井荻村の農家の長男として生まれる。明治40年に村長となり、その後の町制に伴い町長となる。大正12年から、井荻村の土地区画整理事業を始め、昭和10年に完成。また、大正13年に東京府会議員、昭和7年には東京市会議員、昭和18年に東京都議会議員となり、昭和20年に都議会議員に就任。その他、農業団体や、農産物流通系の民間会社、金融機関などで数々の要職を務める。昭和50年、98歳で死去。



③井荻信用購買組合を設立



農業資金や資材供給を計画的に行うため信用組合を設立し、産業や生活を安定化。その後合併を重ね、現在の西武信用金庫となる。

④中島飛行機東京工場の誘致



産業を育成・誘致し、雇用を確保。荻窪病院は工場の付属病院だった（工場跡地は現在の桃井原っぱ公園などに）。

立ったのです。

「田畑やあぜ道が広がる一帯に、道路や宅地などの将来図を、いわば重ねながら工事をし、土地の基盤をつくる事業が区画整理です」

そんなことをすれば、自分の土地が狭くなり損をしてしまう。反対する人が続出する中、秀五郎は、1軒ずつ丹念に訪ねます。新しい時代への備えは、地域だけでなく、一人一人のためにもなるのだと説いて、信頼を得ていきました。約10年をかけ、すでに町となっていた井荻全域（約880ヘクタール）の大規模な区画整理を成し遂げたのです。

「強い意志や丁寧な進め方、生産や生活の向上を目指す姿勢。郊外の市街地化を先取りする、今でいう“まちづくり”の構想には、時代を超えた先見性を感じますね」



区画整理が行われた頃の井荻町の風景 出典：井荻町土地区画整理組合「事業誌」

百年前の“まちづくり”が今につながる

内田秀五郎によるさまざまな改革で、当時の井荻エリアは先進的なまちなみを整えていきました。杉並区の発展の礎となった内田秀五郎の事業からいくつかをご紹介します。

①西荻窪駅などの駅を誘致



土地を提供して、中央線西荻窪駅や西武新宿線区内3駅を誘致し、交通の利便性を向上。

②上水道等のインフラ整備



善福寺池の地下水を利用した町営水道を設けるなどして、生活の利便性を向上。

③善福寺池周辺の景観を保全



善福寺池周辺の風物を大切に「風致協会」を設立した（後に都立善福寺公園として開園）。

④たくあん等の特産品の生産



大根をたくあん漬けに加工して出荷することを奨励し、農家の現金収入が大きく増加。

出典：②第一期水道抄誌、③井荻町土地区画整理組合「事業誌」

自然や景観と調和する開発でなければならない

秀五郎の先見性は、区画整理だけにとどまりません。例えば、中央線に西荻窪の駅を誘致し、新しく敷設される西武新宿線にも、下井草・井荻・上井草の3つの駅を誘致します。上水道を敷設し、いくつもの小学校を開き、農芸高校も誘致しました。産業振興のために中島飛行機の工場を受け入れて、新たな就業先も生み出したのです。

しかも、その工場にはばい煙や騒音、排水などの防止を条件付け、善福寺池周辺の自然や景観を守る活動を続けるなど、地域の環境を守ることを大切に、調和のとれた開発の在り方を貫きました。

新しい時代に備える先進的な事業に、戦後も長く取り組み続けた秀五郎。井荻だけでなく、今の杉並区の姿の土台は、彼によって築かれたといっても過言ではありません。

interview
東京都立大学名誉教授
高見澤邦郎さん

たかみざわ・くにお 東京都立大学名誉教授。工学博士。専門は都市計画学。昭和17年に荻窪で生まれ、幼少期から高校生までを暮らす。旧・井荻町の土地区画整理事業をはじめ、さまざまな地域の市街地整備の歴史に詳しく、『井荻町土地区画整理の研究』の著書がある。元杉並区まちづくり景観審議会会長。



原水爆禁止署名運動

公民館から世界へ
広がった、平和への活動



運動の拠点となった杉並区立公民館館長室と署名簿の山 (郷土博物館蔵)

これは、魚屋さんだけでなく、全人類の問題です

食卓に並ぶ、おいしい料理。でも、その食材が、もし放射能に汚染されていたら？ アメリカが水爆実験を行った昭和29年(1954年)3月、本当にそんな事態が起きました。水産物が汚染され、日本でも死の灰を含む雨が降り、深刻な社会問題となる中、実験反対の声が湧き上がります。

原水爆禁止署名運動を巡る 当時の社会状況

第二次世界大戦後、東西の冷戦が激しくなり、朝鮮戦争が起き、ソ連とアメリカは競って核実験を繰り返します。中でも、ビキニ環礁で行われたアメリカによる水爆実験の威力はひととき大きく、第五福竜丸をはじめ、多くの日本の遠洋漁船が被ばく。当時の重要なタンパク源だったマグロや鯨なども汚染されました。水産業は大きな打撃を受け、魚商組合などが始めた実験反対の署名運動は、公民館を拠点とした杉並全体の活動につながり、全国へ、そして世界へと広がっていったのです。



署名やカンパを呼びかけたメガホンと活動時に身につけたタスキ (※)

区民も区も一つになった、 オール杉並の署名運動

前年の昭和28年(1953年)に開館したばかりの杉並区立公民館は、女性たちの熱気にあふれていました。第五福竜丸の被ばくから1か月半後の4月16日、女性の参政権行使を記念する講演会が開かれ、区内のさまざまな女性団体の人たちが集まっていたのです。

講演後、一人の女性が立ち上がります。和田で魚屋を営む菅原トミ子さんです。「水爆問題を取り上げてください。魚が売れなくなり、店を閉めなければなりません」と訴えたのです。そして、魚商組合が始めた水爆禁止署名への協力を求めると、館長の安井郁(法政大学教授)は、「これは、魚屋さんだけでなく、全人類の問題です」と応じて、その場にいた杉並婦人団体協議会の会員が緊急に集合し、水爆反対の合議決議をしました。

翌日には、区議会も水爆禁止の決議を満場一

致で採択。高まる機運を受けて、5月9日には、さまざまな層や立場の団体が結集し、〈水爆禁止署名運動杉並協議会〉を結成。安井館長が議長となって、世界の人々へも訴えるヒューマンイズムの精神につらぬかれた署名運動を始めるのです。



運動推進のリーダーシップをとった安井郁館長(明治40年-昭和55年)

「受け持ちの区域を決め、しっかり説明をしながら、丁寧に署名を訴えたのです。署名用紙にはあらかじめ通し番号を入れ、二重署名が起きないように、厳重に注意したと聞いています」と、安井館長の長男の妻、安井節子さん(安井節子)は、署名簿の用紙を示します。

運動はまたたくまに杉並全体へ広がって、当時の区の人口の2/3以上となる約26万もの署名が、1か月半ほどの短い間に集まります。

「ようやく占領が終わり、まだ暮らしは豊かじゃなくても、新しい時代を自分たちでつくっていかなくちゃ、という気持ちがあふれていたのではないのでしょうか」と、地域活動に長く携わってきた林美紀子さんは、当時をそう語ります。

全国規模の協議会が8月に結成されてからも、運動の拠

点は公民館でした。そして、国内で3千万を、世界では6億を優に超える署名が集まりました。それが、翌年の広島での原水爆禁止世界大会の開催へつながり、例を見ないほどの平和運動へと広がっていったのです。

公民館での社会教育活動こそ、 この運動の原動力

安井館長は、国際法学者でもあり、「公海上の漁船を被ばくさせた水爆実験は、国際法に違反する」と国会で証言しています。戦後早くから社会教育活動へ取り組み、PTAなどの団体とのつながりも深く、公民館長となってからは、第一線の学者を講師として招いた〈公民教養講座〉を開催。妻の安井田鶴子さんも一員であった、社会科学の本を読む女性たちとの読書会〈杉の子会〉も定期的に開かれました。この〈杉の子会〉も、その後の署名運動を支えることになりました。

昭和63年(1988年)に行われた〈杉並区平和都市宣言〉は、核兵器のない平和な社会を求めて区民と区が一体となって取り組む精神を引き継ぐものです。平成元年(1989年)3月、老朽化で閉館した公民館の役割は、同年6月に設置されたセシオン杉並へ継承されました。その跡地へ、公民館の活動を記念する〈オーロラの碑〉が建てられました。



原水爆禁止を訴える当時のポスター (※)



原水爆禁止世界大会
記念のバッジ (※)



原水爆被爆者救済の千羽鶴を
モチーフにした徽章 (※)



杉の子会の旗 (※)



安井郁が館長を務めた昭和27年当時の杉並図書館



昭和40年当時の杉並区立公民館(杉並図書館に併設)



平成3年建立 歴史の証し〈オーロラの碑〉
(瀧徹作)

公民教養講座には、毎回前半にクラシックのレコードコンサートがあったんです。安井郁らしいですね。楽しみにしていた人も多かったみたいです

interview
安井節子さん



地域のつながりや社会への関心が強いのが、きっと杉並らしさなんですね

interview
林美紀子さん

(※) は安井家保存資料

東京高円寺阿波おどり

まちおこしが生んだ、
東京でいちばん熱い夏



伝統を踏まえながら、新しい風を取り入れる

夜空に響く鳴り物のリズムによって登場する、しなやかな女踊りと勇壮な男踊り。この隊列の両側には幾重もの人垣ができ、阿波踊り一色になる高円寺の夏。100万もの観衆が熱狂する一大イベント「東京高円寺阿波おどり」は、ある商店街のまちおこしから始まりました。

よく分からないけど、
とにかく踊ってみよう！

「四国の徳島には、踊りながら通りを進む祭りがあるらしいよ」

へえ〜、うちの商店街でもできるかな？ 高円寺南口の商盛会（現・パル商店街）の会合で、そんなやり取りがあったのは、昭和32年（1957年）の夏。隣の阿佐谷で始めた七夕まつりが人気を集め、こちらも負けていられないと、青年部の若手たちが知恵を絞っていたのです。

どんなものかよく分からないけど、その阿波踊りというのをとにかくやってみよう！ 日本舞踊の師匠に頼んで、その人なりの阿波踊りをみんなで習い、鳴り物は、チンドン屋に加勢してもらうことになり、女性たちも駆り出されました。

こうして、顔を白く塗り、眉黒、口紅で化粧をした若者たちが、佐渡おけさ風のリズムに乗って踊り歩いたわけですが、さすがに阿波踊りを名乗るのとはばかられ、「高円寺ばか踊り」という名

称による第1回目でした。しかし、人垣に阻まれて売り上げにはつながらず、商店街の中から反対論が噴出したり、騒音への苦情もひっきりなし。警察も道路の使用許可をなかなか出してくれませんでした。数え切れないほどの困難の一つ一つと向き合いながら地域が協力して回を重ねます。在京の徳島出身者から指導も受け、名称も「高円寺阿波おどり」と改めることになりました。



昭和33年 第2回「高円寺ばか踊り」の様子

北も南も一緒に踊ってしまうのが、 高円寺というまち

「何だか、向こうの方でおかしなことをやってるな」

駅の南北が、まだ開かずの踏切で隔てられていた頃、北側の銀座商店街（現・純情商店街）の若手だった杉谷宗彦さん（江戸っ子連会長）は、南側の動きをそう感じていたそうです。当時南側は、新高円寺商店街（現・ルック商店街）も加わって、同好会的な独立連も生まれ始めていました。そして、昭和42年（1967年）、中央線が高架化し、ついに北側へも演舞場が拡大。高円寺がまるごと阿波踊りのまちになり、いっそう多くの人が集まってくるようになったのです。

「その頃には、もうこっちでも連を作って、向こうに教えてもらいながら、踊り始めていたんですよ。北と南が張り合って、別の催しをやるんじゃなくて、一緒に踊ってしまうというのが、阿波踊りの面白さ。また、高円寺というまちの不思議なところですよ」

自らも徳島でみっちり修行したという杉谷さん。みんなが、阿波踊りの魅力に取りつかれて、徳島へ留学に行った頃から、さらに踊りの輪は広がり続け、現在は約1万人の踊り手が参加し、東京高円寺阿波おどり振興協会を中心に商店会や町会、ボランティアなどが結集し運営を行っています。

「今では、徳島との姉妹連もたくさんあり、交流も盛んです。でも、向こうへ行くたび、いまだに学ぶことばかり。どれだけ稽古し工夫しているつもりでも、まだまだ足



昭和40年 第9回「高円寺阿波おどり」の様子



昭和38年の練習風景

りないと思い知らされます」

最年少での女性連長となった喜入恭子さん（天狗連連長）は、その覚悟を示します。

「伝統を踏まえながら、新しい風をどれだけ取り入れられるか。受け継いでいくことの意味を、考え続ける毎日ですね」

100万人が見守る熱い夏が、今年もやってきます。



interview
天狗連連長
喜入恭子さん

interview
江戸っ子連会長
杉谷宗彦さん

世界に広がる阿波踊り / 「東京高円寺阿波おどり台湾公演」の開催

平成27年（2015年）の国立台湾戯曲学院での祝賀公演をきっかけに、同学院と「文化・芸術の相互交流推進宣言」を取り交わし、以降平成29年（2017年）、31年（2019年）にも公演を開催。台湾各地の街路で行われる演舞に、観衆は歓声と拍手で応え、毎回、大盛況となっています。



東京ごみ戦争年表

昭和41年 11月14日	都が高井戸に杉並清掃工場建設を発表	
昭和43年 11月19日	建設反対期成同盟が発足	
昭和43年 10月5～9日	都の測量隊立入阻止	
昭和46年 9月28日	美濃部東京都知事が東京ごみ戦争を宣言	
昭和47年 2月26日	都との覚書交換 〔強制取用はしない旨の内容を杉並区のごみ搬入を江東区が阻止(第一回)〕	
昭和48年 5月22日	杉並区のごみ搬入を江東区が阻止(第二回)	
昭和49年 11月25日	都が建設予定地を高井戸に再決定	
昭和54年 11月1日	杉並清掃工場建設に関する和解成立	
昭和55年 11月1日	(財)杉並正用記念財団設立	
昭和58年 1月1日	杉並清掃工場本格操業開始	
昭和58年 4月1日	高井戸市民センター開設	

Suginami's Five Stories
継
第四話

東京ごみ戦争

子どもたちの未来のために、住民たちは声をあげた



昭和43年 清掃工場設置反対運動の様子

地域につくる工場だから、住民が関わるのは当たり前

暮らしの中で出るごみの処理は、昔も今も、都市の大きな課題です。どこかで処理をしなければならないと分かっているけど、もしその施設が、いきなり身近なところに建てられることになったら？ 半世紀前、そんな事態に直面したのが、高井戸地域の人たちでした。

ごみ処理をめぐる当時の社会状況

高度経済成長期、急増するごみは、未処理のまま埋め立てられていました。汚汁を垂れ流す収集車が走り回り、ハエや蚊、悪臭などへの対策は追いつかず、その大半を受け入れていた江東区では、環境被害が深刻化。当時、区部の清掃行政を担っていた東京都は、区ごとに清掃工場を建てようと計画します。しかし、各地で建設反対運動が起きる中、江東区は態度を硬化。公開質問状が出され、ごみの持ち込みを拒むなど、紛糾する状況は「東京ごみ戦争」と称されました。杉並区でも昭和41年（1966年）11月14日、都は、高井戸への清掃工場建設をいきなり発表。事前の調整がないままの一方的な通知であった上、選考の経緯も不透明であったことから、地域住民による足掛け9年にわたる反対運動が始まったのです。

不透明な選考による、高井戸への工場建設の決定

はじめは、一枚のチラシでした。
〈貴区から排出するごみを衛生的に処理するため、杉並清掃工場を下記により建設することになりました〉
高井戸の住民は、新聞に折り込まれたこのチラシで、決定が地元への相談なしに行われたことを初めて知ったのです。
「そりゃ、みんな驚きましたよ。何の理由も説明もないまま、いきなり高井戸に決めたとたんなんですから」
内藤博孝さん（高井戸町会会長）は、当時まだ高校生。運動を担っていた両親から、関わることは禁じられたものの、経緯は詳しく教えてもらっていたそうです。
すぐに当時の町会長が区役所へ走ると、そこでは、都から区への工場建設の説明の真っ最中。し

かし、町会長は入場を断られてしまいます。やむなく高井戸へ戻り、緊急役員会を招集。地権者が土地を売らないことを確かめ合い、5日後には「建設反対期成同盟」が結成されました。

まず、反対署名を集め、提訴による法廷闘争も行いました。都による強硬策に対抗するため、見張り小屋を設置。常に見張りを行い、都職員が測量しようとすると、石油缶をたたいて鳴らし、住民を集めて押し返しました。また、外部からの支援の申し出は全て辞退し、地域の自主闘争を貫いたのです。

子どもたちの未来のために、和解勧告を受け入れる

一方、自区内処理を求める江東区は、各区で工場建設が進まないことへ強く反発。都は、とくに杉並区における解決へ向けて、高井戸への決定をいったん棚上げし、区内の候補地の再検討を行います。しかし、各地で反対が起きて協議は進まず、不信を強めた江東区は、杉並区のごみ搬入を実力で阻止。区内にごみがあふれる中、拙速な選考により高井戸が再び予定地に選定され、事態が緊迫したとき和



昭和47年1月28日 現地対話集会後の共同記者会見

解を勧めたのは東京地裁でした。
「拒否すれば、土地は強制取用されてしまう。大いに悩みながらも、高井戸の子どもたちの未来のために和解に応じようと、みんながまとまったのです」

話し合いによる解決を目指す、都と住民の誠意

いよいよ、解決へ向けた協議が始まります。工場の建設や運営への住民の参加、厳格な公害対策、焼却量の上限定、専用の搬入路の設置、住民施設の整備など、和解の条件は先進的なものでした。なかでも、公害防止に関する条件は厳しい内容でしたが、都は全面的に受け入れ、国をはるかに上回る厳しい環境基準をもって応えたのです。



杉並清掃工場と子どもの像

こうして、当時、世界で最も地域環境に配慮された新しい清掃工場の建設が動き出します。昭和57年（1982年）に竣工した杉並清掃工場は、30年以上にわたり稼働。その後、住民も参画する中、最新鋭の工場へと建て替えられ、資料館として「東京ごみ戦争歴史みらい館」が場内に開設されました。

高井戸住民による運動は、公共施設の建設をめぐる住民参加のさきがけとなり、ごみに対する人々の意識を大きく変えるきっかけともなったのです。



interview
高井戸町会会長
内藤博孝さん



南相馬市での第3回自治体スクラム支援会議に参加した田中区長他各首長

指示を待つ前に、まず自分たちで動かなきゃ

平成23年（2011年）3月11日、列島を襲った激しい揺れ。直後に発生した津波は、東北地方の太平洋岸を呑み込み、浸水した福島第一原発では、深刻な事故が起きました。地震、津波、そして放射能という、3つの災害に見舞われた南相馬市では、多くの人命が失われ、通信や交通も途絶。人々は逃げ惑い、自治体は孤立無援の状態となりました。

必要な支援を必要とに行えるのは、自治体同士だ

その日、区内の被害の対応へ追われながら、杉並区役所にとって、東北地方の被害も気がかりでした。小学生野球を縁に交流を重ね、災害時相互援助協定も締結している、南相馬市役所と連絡が取れないのです。

同じ頃、南相馬市では、原発事故の放射能を避けるために、市域の大半で屋内退避が指示されていました。避難地域からやってきた人たちも多く、市役所周辺は被災した人たちであふれていたのです。国や県と連絡がつかず、救援物資も届かず、食料や燃料などの窮乏に苦しんでいました。

ようやく電話がつながったのは、以前の派遣研修で知り合った職員同士の携帯電話によってでした。初めて具体的な窮状がわかり、区では域外避難のためのバスを仕立てようと、都へ掛け合いま

すが、都の交通局のバスは使えず、民間バスを調達するしかありません。

「そのとき、東吾妻町が、いち早く5台のバスを仕立てて屋内退避地域内へ入り、人々を避難させてくれたのです」

芝田文一さんは当時、区の危機管理室の係長。国や都道府県の指示が錯綜する中、自分たちでできる支援はないかと、区から区の交流自治体へ呼



避難者を東吾妻町へ

自治体スクラム支援とは

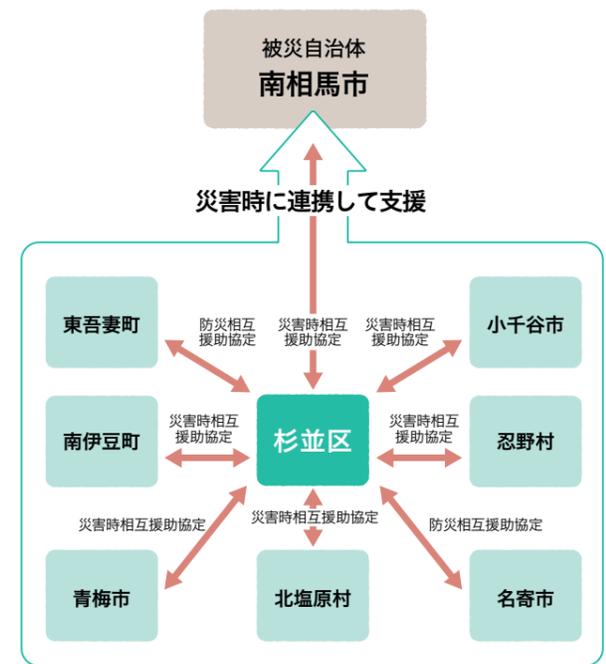
災害時に自治体が連携して支援する仕組み

被災した自治体に対し、区市町村が連携して支援する、新しい仕組みのこと。東日本大震災の際、区と交流のある南相馬市を支援するために、杉並区から、区の交流自治体である群馬県東吾妻町、新潟県小千谷市、北海道名寄市へ呼びかける中で実現しました（現在は、福島県北塩原村と東京都青梅市、静岡県南伊豆町、山梨県忍野村も参加）。従来は、災害が起きたとき、国から都道府県へ、そして区市町村へという、垂直型の指示系統によって支援を行うことが一般的でした。その集権的な方式は、大規模な支援には好適ですが、迅速できめ細かい支援には対応しにくい面があります。

自治体同士が独自に動く、水平型の支援

国や都道府県を介さずに、区市町村同士が直接連携し合う、水平型の支援では、その時々状況に応じたタイムリーな支援を、素早いネットワークで実現できる、分権的な利点があります。それまで被災自治体とは交流がなかった自治体が、交流のある自治体とのつながりに基づいて支援を行う、いわば「友だちの友だちは友だち」という考えによる仕組みです。

自治体スクラム支援イメージ図



菅直人首相（当時）へスクラム支援会議が支援を要請

びかけることで、事態が動いたのです。状況が刻々と切迫する中、東吾妻町は、避難した人々を受け入れる施設も提供。中越地震を経験している小千谷市では、避難者の生活を支援し、北海道の名寄市からは、飲料水などの豊富な救援物資が届きました。

必要な支援をタイムリーに行えるようにする、仕組みづくり

孤立した南相馬市を、それぞれの強みを生かしながら支えた、自治体同士の連携。国や都道府県からの垂直型の指示を待つのではなく、区市町村が直接連絡を取り合う水平型の支援を行ったことで、必要な支援をタイムリーに行うことができました。

ところが、当時の災害救助制度では、被災道府県からの

要請がない中での支援は、国の財政措置の対象外になってしまいます。被災後も厳しい状況が続き、復旧・復興への道筋も長期化が見込まれる中、それまで緊急避難的に取り組んできた自治体間の支援を、これからも継続的に進んでいくためには、国によるバックアップが必要となります。

〈自治体スクラム支援〉と名付けた支援の仕組みを訴えるために、4月8日、区は、他の自治体とともに首相官邸を訪れます。これが災害対策基本法の一部改正につながり、各自治体内でも相互支援を行う条例等の整備が進められていきました。

芝田さんも、平成30年（2018年）から2年間、南相馬市の危機管理課へ派遣され、当地の地域防災計画の見直しにも関わりました。

「これまで、人や物資を送り出す側でしたが、ようやく自分自身も当地へ赴くことができました。スクラム支援も、日頃の関係づくりが大切。これからも、何かのかたちで南相馬市へ関わっていききたいですね」

interview

元杉並区職員

芝田文一さん



- 昭和 7年 10月 ● 杉並区誕生（人口146,560人、31,583世帯）
- 魚井重太郎区長就任
- 11月 ● 第1回区会議員選挙
- 昭和 8年 2月 ● 防護団創設（防空のための住民組織）
- 8月 ● 井の頭線開通（渋谷～井の頭公園間）
- 区内全域に町内会結成
- 昭和 9年 6月 ● 増田穆区長就任
- 昭和10年 4月 ● 杉並区公報（現・広報すぎなみ）創刊
- 昭和11年 10月 ● 塚山遺跡（下高井戸）で区内初の竪穴住居跡発掘
- 11月 ● し尿くみ取り新市域に拡大
- 昭和12年 4月 ● 水道道路（井ノ頭通り）開通
- 11月 ● 杉並保健相談所（現・杉並保健所）開設
- 昭和13年 5月 ● 広田傳蔵区長就任
- 昭和14年 6月 ● 田中直次区長就任
- 9月 ● 区役所庁舎完成（木造モルタル2階建）
- 昭和15年 12月 ● 縄文時代早期前半の標式土器「井草式土器」発掘
- 昭和16年 4月 ● 小学校26校が国民学校と改称
- 昭和17年 9月 ● 戦時下体制強化として親切課、戦時生活課、防衛課などを設置



昭和7年 杉並区誕生



昭和12年 青梅街道



昭和14年 区役所庁舎

- 昭和23年 5月 ● 高木敏雄区長就任
- 昭和24年 5月 ● 第1回杉並子ども区議会開催
- 昭和25年 3月 ● 今井政吉氏が済美学園を杉並区に寄贈
- 7月 ● 杉並児童相談所開設
- 9月 ● 小学校でパン給食完全実施
- 10月 ● 杉並図書館が都から区へ移管
- 昭和26年 3月 ● 済美教育研究所開設
- 4月 ● 区議会議員選挙 ※初の女性議員誕生
- 10月 ● 杉並区商店会連合会発足
- 杉並福祉事務所開設
- 昭和27年 9月 ● 区長公選制廃止
- 杉並区紋章制定（10月使用開始）
- 11月 ● 区教育委員会設置
- 昭和28年 11月 ● 公民館開館（杉並図書館併設）
- 昭和29年 5月 ● 水爆禁止署名運動杉並協議会発足
- 8月 ● 第1回阿佐谷七夕まつり
- 昭和30年 3月 ● 松ノ木運動場開設、松ノ木復元住居竣工
- 8月 ● 蚊とハエをなくす区民運動開始



昭和27年 杉並図書館



昭和28年 区役所屋上より

すぎなみの歴史

昭和7年杉並区誕生～昭和37年 昭和

- 昭和18年 2月 ● 区民に鉄・銅の供出を呼び掛け
- 7月 ● 都制が施行され「東京都杉並区」に
- 山根幸八区長就任
- 昭和19年 8月 ● 学童集団疎開、長野・宮城県へ
- 11月 ● 杉並初の空襲
- 12月 ● 高井戸第四国民学校が空襲で全焼
- 昭和20年 5月 ● 杉並全域に最大の空襲
- 8月 ● 太平洋戦争終戦
- 10月 ● 集団疎开学童の帰京始まる
- 12月 ● 高橋寛区長就任
- 昭和21年 2月 ● 杉並保育園開園
- 9月 ● 第一次地方制度改革（区長公選制、区税の賦課、公債発行など）
- 10月 ● 杉並図書館開設
- 12月 ● 小学校の学校給食開始
- 昭和22年 4月 ● 新居格区長就任（初の公選区長誕生）
- 5月 ● 杉並区など22区が特別区となる
- 区立中学校（20校）開校
- 6月 ● これまでの町会制度を廃止、17出張所を新設



昭和16年 隣組大会



昭和20年 神田川

- 昭和31年 6月 ● 区長選任制移行で高木敏雄区長就任
- 8月 ● 区民ハエ取りコンクール開催
- 10月 ● 開都500年記念杉並商業まつり開催
- 昭和32年 2月 ● 第1回区民の声を聞く会開催
- 7月 ● 杉並公会堂開設
- 8月 ● 第1回高円寺ばか踊り（現・東京高円寺阿波おどり）開催
- 12月 ● 加藤豊三区長就任
- 昭和34年 4月 ● 奨学資金貸付制度開始
- 6月 ● タイプライターで戸籍作成開始
- 11月 ● 杉並区町会連合会発足
- 昭和35年 8月 ● 杉並児童学園（現・すぎのき生活園）開設
- 昭和36年 6月 ● 都立善福寺公園開園
- 昭和37年 2月 ● 区長公選制実現杉並区民協議会発足
- 5月 ● 区民寮すぎなみ荘開設
- 菊地喜一郎区長就任
- 8月 ● 三宅島大噴火で富津学園に避難児童受け入れ



昭和33年 天沼陸橋



昭和34年 出初式（区役所前）

- 昭和38年 4月 ● 妙正寺公園開園
- 7月 ● 区役所新庁舎完成
- 9月 ● 住居表示開始（昭和44年11月完了）
- 昭和39年 7月 ● 学童保育開始
- 富士学園開園
- 8月 ● 都立善福寺川緑地、都立和田堀公園開園
- 善福寺川、神田上水、桃園川、妙正寺川の改修工事開始
- 昭和40年 3月 ● 交通安全杉並区宣言
- 4月 ● 地方自治法改正による大幅な事務移管で部制施行
- 福祉事務所（現・杉並福祉事務所）が区に移管
- 8月 ● 産業館（現・産業商工会館）開館
- 昭和41年 4月 ● 児童館事業開始
- 11月 ● 都が高井戸に杉並清掃工場建設を発表
- 昭和42年 4月 ● 高井戸保健所（現・高井戸保健センター）開設
- 11月 ● 住民基本台帳制度開始
- 12月 ● 杉並会館開館
- 昭和43年 8月 ● 都が杉並清掃工場建設予定地の土地収用手続き開始
- 12月 ● 松ノ木古代住居趾修復
- 昭和44年 4月 ● 科学教育センター（後の科学館。現在は廃止）開設
- 7月 ● 杉並商店街振興組合発足



富士学園



昭和43年 清掃工場設置反対運動

- 昭和51年 8月 ● 総合震災訓練開始
- 12月 ● 戸籍謄抄本の閲覧禁止
- 昭和52年 4月 ● 移動図書館「たびびとくん」運行開始
- 12月 ● 基本構想策定「緑の豊かな福祉文化都市」
- 昭和54年 1月 ● 個人情報保護対策審議会設置
- 3月 ● 荻窪地域区民センター開設
- 4月 ● 済美養護学校開校
- 10月 ● 上井草総合運動場が区に移管
- 11月 ● 杉並清掃工場本体工事着工
- 昭和55年 4月 ● 弓ヶ浜学園開園
- 昭和56年 1月 ● 防災行政無線設置
- 3月 ● 中杉通り開通式
- 4月 ● 住民記録システム稼働
- 10月 ● 大田黒公園開園
- 昭和57年 4月 ● 障害者福祉会館・南福祉事務所（現・杉並福祉事務所高井戸事務所）開設
- 9月 ● 杉並区歌、杉並音頭制定
- 10月 ● 中央図書館開館



昭和53年 移動図書館「たびびとくん」



昭和56年 中杉通り開通

SHOWA 昭和

昭和38年～昭和63年

- 昭和45年 4月 ● 初の区立幼稚園開園
- 6月 ● 区政モニター制度発足
- 7月 ● 初の光化学スモッグが区内で発生
- 昭和46年 5月 ● 自動車排気ガス実態調査開始
- 荻窪駅北口再開発計画案策定
- 8月 ● 粗大ごみ収集開始
- 昭和47年 4月 ● 杉並児童交通公園開園
- 10月 ● 消費者センター開設
- 12月 ● 杉並区のごみ搬入を江東区が阻止（第1回）
- 昭和48年 5月 ● 杉並区のごみ搬入を江東区が阻止（第2回）
- 都が杉並清掃工場建設予定地を高井戸に再決定
- 6月 ● 妙法寺鉄門が重要文化財に指定
- 10月 ● みどりの条例制定
- 昭和49年 9月 ● 南伊豆養護学園（後の南伊豆健康学園。現在は廃止）開園
- 11月 ● 杉並清掃工場建設に関する和解成立
- 昭和50年 4月 ● 区長の公選制が復活、保健所が区に移管
- 5月 ● 中央高速高井戸ランプ問題で五者協議会発足
- 6月 ● 高井戸遺跡発掘
- 7月 ● 杉並清掃工場計画建設協議会発足



昭和44年 科学教育センター開設



昭和46年 本庁舎拡張工事竣工

- 昭和58年 1月 ● 杉並清掃工場の本格操業開始
- 4月 ● 高井戸地域区民センター、老人福祉センター（現・高齢者活動支援センター）、高井戸温水プール開設
- 松田良吉区長就任
- 10月 ● 不燃化促進助成制度開始
- 昭和59年 4月 ● デイホームすぎなみ事業開始
- 9月 ● 自転車の放置防止及び駐車場整備に関する条例制定
- 12月 ● 勤労福祉会館・西荻地域区民センター開設
- 昭和60年 3月 ● 気象研究所跡地に馬橋公園開園
- 昭和61年 4月 ● いじめ電話相談開設
- 8月 ● 蚕糸試験場跡地に蚕糸の森公園開園
- 昭和62年 1月 ● 環状七号線沿道整備計画事業開始
- 3月 ● エイズ相談窓口開設
- 6月 ● 情報公開・個人情報保護制度開始
- 10月 ● 出張所オンラインシステム稼働
- 昭和63年 3月 ● 杉並区平和都市宣言
- 塚山公園開園
- 9月 ● 基本構想策定「みどり豊かな福祉と文化のまち」



昭和56年 杉並清掃工場建設

- 平成元年 3月 ● 公民館閉館
- 5月 ● 郷土博物館開館
- 6月 ● 社会教育センター・高円寺地域区民センター「セシオン杉並」開設
- 7月 ● 北海道風連町（現・名寄市）と交流自治体協定締結
- 8月 ● 群馬県吾妻町（現・東吾妻町）と友好自治体協定締結
- 平成2年 2月 ● 区役所西棟新庁舎、阿佐ヶ谷中学校校舎完成
- 3月 ● 平和都市宣言記念像「ジーンズ」建立
- 5月 ● オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州
ウィロビー市と友好都市協定締結
- 7月 ● 第1回すぎなみふるさとまつり開催
- 平成3年 4月 ● 公民館跡地記念碑「オーロラ」建立
- 6月 ● 荻窪体育館開館
- 12月 ● 大韓民国ソウル特別市瑞草区と友好都市協定締結
- 平成4年 2月 ● 区役所中棟新庁舎・駐車場完成
- 3月 ● 杉並区コミュニケーションマーク制定（10月使用開始）
- 4月 ● (財)杉並区勤労者福祉協会設立
- 7月 ● 完全週休二日制（土曜閉庁）開始
- 平成5年 3月 ● 区役所東棟新庁舎完成
- 4月 ● 重度身体障害者通所施設「こすもす生活園」開設
- 7月 ● 3歳未満乳幼児の医療費助成開始
- 10月 ● (財)杉並区スポーツ振興財団設立



郷土博物館古民家



区役所新庁舎

- 平成12年 4月 ● 改正地方自治法が施行され特別区が「基礎的な地方公共団体」となる
- 清掃事業（収集・運搬）が都から区に移管
- 9月 ● 基本構想（杉並区21世紀ビジョン）策定
- 「区民が創る「みどりの都市」杉並」
- 11月 ● 南北バス「すぎ丸」運行開始
- 平成13年 4月 ● 17出張所を7区民事務所・2分室・荻窪サービスコーナーに再編
- 9月 ● 住民基本台帳に係る個人情報の保護に関する条例制定
- 10月 ● 学校希望制度開始
- 平成14年 3月 ● すぎなみ環境目的税条例（レジ袋税条例）制定（未施行）
- 4月 ● 「めざせ五つ星の区役所」運動開始
- 11月 ● 自治基本条例制定
- 平成15年 3月 ● 杉並区長の在任期間に関する条例（多選自粛条例）制定
- 4月 ● 都内初の民間人校長誕生（和田中学校）
- 8月 ● 安全パトロール隊発足
- 10月 ● 安全美化条例・路上禁煙地区開始
- 平成16年 3月 ● 防犯カメラ設置及び利用に関する条例制定
- 4月 ● 複合施設「あんさんぶる荻窪」開設
- 5月 ● 新潟県小千谷市と災害時相互援助協定締結
- 10月 ● 柏の宮公園開園
- 新潟県中越地震による小千谷市支援を開始
- 11月 ● 福島県北塩原村とまるごと保養地協定締結



すぎ丸



柏の宮公園

平成元年～平成21年 平成

- 平成6年 4月 ● 杉並区リサイクル協会設立
- 7月 ● 日本フィルハーモニー交響楽団と友好提携締結
- 保養施設「すぎなみ自然村」開業
- 8月 ● 杉並ボランティアセンター開設
- 平成7年 4月 ● 本橋保正区長就任
- 10月 ● 北海道風連町（現・名寄市）と防災相互援助協定締結
- 群馬県吾妻町（現・東吾妻市）と防災相互援助協定締結
- 平成8年 4月 ● 井草森公園開園
- 杉並中継所開設
- 平成9年 4月 ● 杉並保健所と5保健センター開設
- こども発達センター開設
- 9月 ● 児童青少年センター・男女平等推進センター「ゆう杉並」開設
- 12月 ● 杉並区男女共同参画都市宣言
- 平成10年 2月 ● 上井草スポーツセンター開設
- 3月 ● 移動図書館「たびびとくん」運行終了
- 10月 ● (財)杉並区障害者雇用支援事業団設立
- 乳幼児医療費助成制度の対象年齢が就学前までに拡大
- 平成11年 4月 ● 山田宏区長就任
- 6月 ● 区内全域で毎週「びん・缶・古紙」の資源回収
- 11月 ● リサイクルひろば高井戸開設



井草森公園

- 平成17年 5月 ● 福島県原町市（現・南相馬市）と災害時相互援助協定締結
- 7月 ● 区独自の教師養成塾「杉並師範館」設立
- 10月 ● 犯罪被害者等支援条例制定
- 平成18年 3月 ● 読書の森公園開園
- 4月 ● 「すぎなみ地域大学」開校
- 6月 ● 杉並公会堂改築
- 9月 ● 区公式アニメキャラクター「なみすけ」を選定
- 平成19年 4月 ● 区が独自に採用した教員を小学校に配置
- 天沼弁天池公園・郷土博物館分館開館
- 6月 ● 杉並子育て応援券事業開始
- 平成20年 4月 ● 区内初の統合新校となる天沼小学校開校
- 区独自の「30人程度学級」実施
- 7月 ● 住基ネットへの参加を決定
- 9月 ● 本庁舎の土日開庁開始
- 平成21年 3月 ● 杉並中継所廃止
- 5月 ● 杉並芸術会館「座・高円寺」開館
- 角川庭園・幻戯山房「すぎなみ詩歌館」開園
- 東京都青梅市と交流に関する協定締結
- 10月 ● 長寿応援ポイント事業開始



天沼弁天池公園



杉並芸術会館「座・高円寺」

- 平成22年 3月 ● 減税基金条例制定
- 7月 ● 田中良区長就任
- 8月 ● 100歳以上高齢者訪問面接調査実施
- 12月 ● 杉並区長の在任期間に関する条例（多選自粛条例）廃止
- 平成23年 3月 ● 東日本大震災による南相馬市への支援開始
- 4月 ● 桃井原っぱ公園開園
- 自治体スクラム支援会議立ち上げ
- 安心おたっしや訪問事業開始
- 8月 ● 東京都青梅市と災害時相互援助協定締結
- 12月 ● 東京都武蔵野市と災害時相互協力協定締結
- 平成24年 2月 ● 福島県北塩原村と災害時相互援助協定締結
- 3月 ● 基本構想（10年ビジョン）策定
- 「支えあい共につくる安全で活力のあるみどりの住宅都市 杉並」
- 減税基金条例の廃止
- 4月 ● 次世代育成基金を設置
- 6月 ● 杉並区産業振興センター開設
- 8月 ● 平和市長会議に加盟
- 山梨県忍野村と災害時相互援助協定締結
- 9月 ● 静岡県南伊豆町と災害時相互援助協定締結
- 平成25年 7月 ● 東京都小笠原村と子ども自然体験交流事業推進宣言を取り交わす
- 12月 ● 台湾政府教育部体育署などと青少年の夢を育む交流事業推進宣言を取り交わす



桃井原っぱ公園



杉並和泉学園

平成22年～平成31年 平成

- 平成26年 7月 ● あんさんぶる荻窪と荻窪税務署等用地の財産交換に関する覚書を国と締結
- 11月 ● ご当地ナンバー（杉並ナンバー）交付開始
- 12月 ● 自治体間連携による特別養護老人ホーム整備に係る基本合意書を静岡県南伊豆町および静岡県と取り交わす
- 平成27年 3月 ● 学校希望制度廃止
- 4月 ● 杉並区初の小中一貫教育校、杉並和泉学園開校
- 生活自立支援窓口「くらしのサポートステーション」開設
- 東京高円寺阿波おどり台湾公演2015開催
- 国立台湾戯曲学院と文化・芸術の相互交流推進宣言を取り交わす
- 10月 ● 重症心身障害児通所施設「わかば」開設
- 平成28年 3月 ● 荻外荘（近衛文麿旧宅）が国の史跡に指定
- 4月 ● 成田西ふれあい農業公園開園
- 12月 ● 子ども子育てプラザ和泉開設
- 平成29年 4月 ● 下高井戸おおぞら公園開園
- 6月 ● 杉並区いじめ問題対策委員会条例制定
- 9月 ● 首都直下地震を想定した地震被害シミュレーションの公開
- 10月 ● 杉並清掃工場全面改築



下高井戸おおぞら公園



杉並清掃工場

- 平成30年 3月 ● 静岡県南伊豆町との自治体間連携による特別養護老人ホーム「エクレスシア南伊豆」開設
- 「ウェルファーム杉並」複合施設棟開設
- 4月 ● 保育の待機児童ゼロを初めて実現
- 6月 ● 「振り込め詐欺被害0ダイヤル」開設
- 9月 ● 永福体育館の移転改修
- 3施設でネーミングライツ事業開始
- 10月 ● 図柄入り杉並ナンバープレート交付開始
- 平成31年 4月 ● 高円寺子ども家庭支援センター開設
- 令和元年 6月 ● 全区立小・中学校体育館への空調設備の設置開始
- 8月 ● 子育て寄りそい訪問事業「ハロー！なみすけ訪問」開始
- 9月 ● 就学前教育支援センター「すぎっこひろば」開設
- 11月 ● 重度身体障害者通所施設「シャローム上井草さくら」開設



エクレスシア南伊豆



図柄入り杉並ナンバープレート

令和元年～令和4年 令和

- 令和2年 2月 ● 新型コロナウイルス対策本部、杉並区帰国者・接触者電話相談センター設置
- 3月 ● 新型コロナウイルス感染症対策のため、区立学校等の臨時休業、区事業の休止
- 4月 ● 区内基幹4病院における発熱外来の設置支援
- フードシェアリングサービス事業者と食品ロス削減協定を締結
- 9月 ● 中央図書館のリニューアルオープン
- 11月 ● 勤労福祉会館・西荻地区民センターのリニューアルオープン
- 令和3年 1月 ● 新型コロナ専用病床確保のための転院支援事業開始
- 新たな多世代型施設「コミュニティふらっと」開設
- 2月 ● 児童・生徒へ1人1台専用タブレット端末を配備
- 4月 ● 農福連携農園「すぎのこ農園」全面開園
- 7月 ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ受け入れ等
- 9月 ● 自宅療養者支援ステーション開設
- 10月 ● 基本構想策定「みどり豊かな 住まいのみやこ」
- 11月 ● ゼロカーボンシティ宣言
- 12月 ● 特別養護老人ホーム「10年1000床整備計画」達成
- 令和4年 3月 ● ウクライナ避難民への支援（相談窓口等）開始
- 4月 ● 阿佐谷地域区民センターの移転オープン
- 7月 ● 岸本聡子区長就任



中央図書館



農福連携農園「すぎのこ農園」

わくわく!

ふむふむ!

てくてく!

うきうき!

語り継ぎたい杉並

みどり / にぎわい・祭り / 歴史・文学 / 文化・サブカル

大人も子どもも集まる美しいみどりや桜、まちが一体となって盛り上がる熱い祭り、歴史を今に伝えるまちなみ、日本のみならず世界にもファンが多いサブカル文化…。杉並には、子どもへ、孫へ、未来へと語り継いでいきたいことが詰まっています。ここからは、後世へとつないでいくべき区の魅力を4つのテーマから見ていきます。皆さんから募ったお気に入りの場所やイベントも紹介します。

26 | みどり

井草農の風景 / 荻窪の三庭園 / 区民に愛される桜の名所 etc.

28 | にぎわい・祭り

阿佐ヶ谷七夕まつり / 高円寺四大祭り / 音楽を身近に感じるまち etc.

30 | 歴史・文学

阿佐ヶ谷会 / 郷土博物館 / 与謝野晶子が作詞した小学校歌 etc.

32 | 文化・サブカル

座・高円寺 / アニメのまち杉並 / 地域密着のオーケストラ etc.

34 | すぎなみFAVORITE!

皆さんのお気に入りのスポットやおすすめのイベント etc.

すぎなみマップ

どこから巡る?
ゆっくり歩いてみよう!



てくてく!
語り継ぎたい杉並～みどり

今でもかつての農村の面影が

井草農の風景

区の北端・井草地域は、かつて一帯が広大な農村地帯でした。畑一面に大根・白菜・キャベツなどが作られ、23区の中で上位の生産量を誇っていたのです。

区民と共につくる農園
専門家の指導のもと、区民ボランティアが福祉施設などに提供する農産物を生産しています。



info. 農福連携農園すぎのご農園
所在地/井草3-19-23 (旧井草区民農園)

知っとこ
まめちしき!

収穫体験!
区民が参加できるイベントを実施。農作業を通じた区民の交流を生み出しています。



農の風景を今に
農福連携の農園が
井草に誕生

農村の面影を今に残す、井草のこの風景を守りたい

私の子ども時代には、まだ鶏舎や牛舎などがあって、かつての農村地帯の雰囲気の色濃く残っていました。時代とともに畑などは減っていますが、それでも井草はまだ緑が多い地域です。ふとした景色に、農村の面影を感じることがあります。対外的にも「みどりあるまち」として再評価されています。私は現在、井草で花を生産しています。畑という場所を可能な限り残し、ここで育てた花たちで、このまちに花とみどりのある風景を提供したいです。



坂井園芸 代表
東京都花卉園芸組合連合会 温室鉢花部会 会長
坂井 清人さん



(仮称) 荻外荘公園

「荻外荘」は、戦前首相を3度務めた近衛文麿の旧宅で、建築家・伊東忠太設計による現存する数少ない邸宅建築の一つです。組閣や重要な政治会談の舞台となった場所として、平成28年3月に国の史跡に指定されました。豊島区内に移築されていた部分を再移築し、令和6年12月に史跡公園として開園予定です。

info. 所在地/荻窪2-43



荻窪の三庭園

荻窪駅の南側には、政治家や文化人が暮らした建物が残されています。この3つの庭園は、杉並の歴史と文化を今に伝える貴重なもの。これからも地域の皆さんに愛されるよう、次世代に継承します。



11月から12月にかけて行われる紅葉のライトアップは必見!

巡ってみよう

敷地内には400本の樹木! 四季折々の草花の表情が楽しめます。

角川庭園

俳人で角川書店の創設者である角川源義の旧邸宅を改修しました。角川の俳句や写真、所蔵品の展示を見ることができ、俳句・茶会・講座などが催されています。平成21年11月に国の登録有形文化財、平成28年9月に区の景観重要建造物に登録されました。

info. 所在地/荻窪3-14-22

大田黒公園

50年近くもこの地で音楽活動を続けた大田黒元雄の屋敷跡を日本庭園として整備したものです。樹齢100年を超えるイチヨウ並木などの巨木がうっそうと茂っています。また、数寄屋造りの茶室、民家の土間を思わせる休憩室など、歴史ある建物も見どころです。

info. 所在地/荻窪3-33-12



大田黒の仕事場だった記念館には、愛用していたピアノや蓄音機が。

まだまだ! 語り継ぎたいストーリー

PICKUP! 玉川上水と久我山ホテル祭り

玉川上水は、江戸時代に飲料水を供給するために造られた上水路で、現在は一部が暗渠となって区内を通っています。毎年6月に行われている久我山ホテル祭りは、静岡県南伊豆町から譲り受けたホテルを、玉川上水に放したのが始まり。地域の子どもたちでにぎわっています。

久我山ホテル祭り
開催日/毎年6月
開催場所/玉川上水岩崎橋付近、神田川清水橋付近

PICKUP! 区民に愛されるサクラの名所

善福寺川沿いに広がる都立公園の善福寺川緑地と和田堀公園は、区を代表するサクラの名所です。見どころは、川に沿って4.2kmも延びているサクラ並木。川沿いの遊歩道では、多くの人がゆっくり歩きながらサクラを愛でています。駅から離れた場所にあり、落ち着いたサクラを楽しむことができます。



都立善福寺川緑地
善福寺川の中流部の川沿いにあり、400本ものサクラが植えられています。
所在地/成田東2-4、成田西1-3・4、荻窪1

わくわく!

語り継ぎたい杉並～にぎわい・祭り

阿佐谷 七夕まつり

昭和29年に始まった「阿佐谷七夕まつり」。戦後の混乱の中で、まだ冷房機器がない暑い8月に、阿佐谷にお客さまを集めることはできないか…という思いでスタートしました。

時代を映す
はりぼて飾りは必見

区長賞も発表!

各商店が趣向を凝らした
はりぼてが祭りを盛り上げます。
人気投票も行われています。



知っとこ
まめちしき!



夏の風物詩
第1回開催の様子。
長年夏の風物詩として
愛されています。



七夕まつりが
あったからこそ
発展してきた阿佐谷



66年間の祭りの歴史は、阿佐谷の財産です

令和元年に85万人のお客さまをお迎えした「阿佐谷七夕まつり」は、阿佐谷の歴史の一部です。阪神・淡路大震災で被害を受けた神戸の大正筋商店街へは、3年間七夕のはりぼて飾りをお送りし、ノウハウをお伝えしました。東日本大震災の年には、被害に遭われた方の「自粛せず、元気の出るイベントを開催してほしい」というお言葉で開催を決めました。歴史あるはりぼて飾りの伝統を引き継いで、これからもにぎやかな「阿佐谷七夕まつり」を開催し、皆さんにすてきな夏の思い出をつくらせていただきたいと思います。

info. 開催日/毎年8月
開催場所/阿佐谷パールセンター商店街、
南阿佐谷すずらん通り商店街など

阿佐谷商店街振興組合 理事長
河村 正明さん



高円寺演芸まつり
高円寺のあらゆる場所に、
1日限りの寄席が誕生!
まちを巡って、気軽に演芸を
楽しみましょう。

高円寺びっくり大道芸
国内外から
数十組のパフォーマーが集結!
ジャグリング、ダンス、空中ブランコ
など、さまざまな技が
まち角で見られます。



高円寺フェス
まち中のお店が参加する
「秋の大文化祭」。
まち歩きが楽しくなる
2日間です。



話芸に浸り、
嫌なことを笑い飛ばす
笑門来福!

東京高円寺阿波おどり
本場・徳島の指導を受けた
踊りは見ごたえ十分。
前夜祭から、まち中が
熱気に包まれます!



高円寺 四大祭り

春夏秋冬全てを
通して楽しめる

四季それぞれにユニークなお祭りを楽しむことができる高円寺。14ある商店街が一丸となって、訪れる人を楽しませています。地元はもちろん、日本各地、そして世界にも、高円寺のお祭りのファンがたくさんいます。

高円寺演芸まつり 開催日/毎年2月 開催場所/座・高円寺、高円寺エリアにある各店舗など	東京高円寺阿波おどり 開催日/毎年8月 開催場所/高円寺駅周辺の各演舞場など
高円寺びっくり大道芸 開催日/毎年4月 開催場所/高円寺の各商店街	高円寺フェス 開催日/毎年10月 開催場所/南北駅前広場・高円寺一帯

まだまだ!語り継ぎたいストーリー

PICKUP! 音楽を身近に感じるまち

「阿佐谷ジャズストリート」「荻窪音楽祭」は、杉並を代表する2つの音楽祭です。平成7年に始まった「阿佐谷ジャズストリート」は、「阿佐谷のまちをジャズで明るく楽しいまちに」が合言葉。「荻窪音楽祭」は、クラシック音楽を通じて荻窪のまちづくりをしようと平成12年から開催されています。どちらも、開催期間中はまちのあらゆる場所に音楽が響きます。



阿佐谷ジャズストリート
ライブハウスだけでなく、ストリート会場、喫茶店、バーなどでも音楽を楽しむことができます。
開催日/毎年10月
開催場所/阿佐谷エリアのライブハウス・飲食店など



荻窪音楽祭
子どもから大人まで、みんながクラシックを気軽に楽しめるようにと工夫を凝らしたイベントです。
開催日/毎年11月
開催場所/杉並公会堂など

ふむふむ!

語り継ぎたい杉並～歴史・文学

阿佐ヶ谷会

関東大震災以降、中央線沿線（高円寺・阿佐ヶ谷・荻窪）には多くの若手文士たちが住むようになり、「阿佐ヶ谷会」という交遊の場を持ちました。青柳瑞穂邸などを会場に、にぎやかに親睦を深めていました。

多くの文士が集った阿佐谷

知っとこまめちしき!

阿佐ヶ谷会の主なメンバー
井伏鱒二、上林暁、木山捷平、青柳瑞穂、
外村繁、小田巖夫、浅見淵、亀井勝一郎、
中村地平、村上菊一郎、
河盛好藏、島村利正、巖谷大四
など

阿佐ヶ谷会会員署名入灰皿
文士の名前に加え、「阿佐ヶ谷会万歳」と書かれています。



郷土博物館蔵



写真提供/文藝春秋

「阿佐ヶ谷会風景」昭和29年5月22日

今でも、かつての文士たちの気配をどこかに感じます

私の父は阿佐ヶ谷駅北口の商店街で眼鏡店を営っていました。近所の中華料理店から、文士たちが将棋や麻雀をする音がよく聞こえてきたといいます。眼鏡店に文士たちが来店して、私とも顔を合わせていたのかもしれませんが。私は、生まれ育った阿佐谷のまちが好きです。強く押し付けるわけではなく、そこはかたなく文化を感じるのが阿佐谷だと思えます。このまちを好きになる人、住んでみたいと思う人を増やすために、まちづくりに貢献していきたいです。

小川 勝久さん



中華料理店「ピノチオ」
戦前、文士たちがこの離れでよく将棋を指していました。



「ピノチオ想定復元図」(昭和16年頃)

長屋門が目印!
1800年代に建築されたと
いわれる門は、杉並区指定有
形文化財(建造物)です。



郷土博物館 本館

常設展示では、原始・古代から現代までの杉並区の歴史を知ることができます。また、歴史・文学から生き物まで、バラエティーに富んだ特別展・企画展も行っています。

杉並区の3万年にわたる歩みを見ることが
できる常設展示室。



郷土博物館

気軽に立ち寄れる
まちの博物館

郷土博物館の敷地には、かつて嵯峨公勝侯爵の邸宅がありました。昭和12年に、嵯峨浩が清朝最後の皇帝(ラストエンペラー)として知られる愛新覚羅溥儀の末弟・溥傑に嫁ぐ際には当時この地にあった祖父・公勝の邸宅から出立し、その姿を多くの区民が見送ったといえます。

info. 郷土博物館(本館) 所在地/大宮1-20-8(和田堀公園内) ※中学生以上は観覧料100円
郷土博物館(分館) 所在地/天沼3-23-1(天沼弁天池公園内)



「浩見合い写真」昭和11年頃 郷土博物館蔵

いろいろ 囲炉裏のある古民家

江戸時代に建てられた古民家は、下井草から移築したものです。杉並区指定有形文化財(建造物)です。文化財の活用と維持のため、囲炉裏の火入れや、四季折々の年中行事の体験を行っています。



古民家の
囲炉裏では、
火吹き体験も。

まだまだ!語り継ぎたいストーリー

PICKUP! 東京のプロ野球の幕開け

かつて上井草にあった上井草球場(東京球場)は、東京で最初に造られたプロ野球専用の球場です。本拠地としていたのは「東京セネターズ」。昭和39年に取り壊された後、現在は上井草スポーツセンターになっています。

上井草球場/東京球場 所在地/上井草3-27(現・上井草スポーツセンター)

PICKUP! 与謝野晶子が作詞した小学校歌

杉並に暮らした歌人の与謝野晶子。荻窪には晶子と夫・鉄幹の終の棲家がありました。夫妻の家にほど近い桃井第二尋常小学校(現・桃井第二小学校)校歌は、与謝野晶子が作詞したものです。昭和11年に制定されて以来、現在まで子どもたちが歌い継いでいます。与謝野晶子自筆の歌詞やスピーチ原稿は、平成25年度に杉並区指定有形文化財(書跡)となっています。



与謝野公園 与謝野夫妻の自宅があった場所は、現在公園になっています。 所在地/南荻窪4-3-22

うきうき!

語り継ぎたい杉並～文化・サブカル

座・高円寺

舞台芸術の創造・発信と区民の文化活動の拠点「座・高円寺」。演劇やダンスの上演、ワークショップなど、地域と舞台芸術をつなぐ多彩なプログラムを展開しています。まちのイベントも積極的に応援し、舞台芸術でまちに活力を与えることを目指しています。

「まちの劇場」へ行ってみよう

劇場の中の不思議なまち

「みんなのリトル高円寺」は、子どもたちがつくる遊び場です。不思議なまち「リトル高円寺」でどんな思い出を残せるかな?



Photo by 梁丞佑

知っとこまめちしき!



月に一度のお楽しみ

劇場入口で毎月第3土曜日に開催されている「座の市」。朝採れの杉並野菜やパンなど、おいしいものがずらりと並びます。

劇場へいこう!
座・高円寺レパトリー
『フランドン農学校の跡
～注文の多いオマケ付き～』
Photo by 梁丞佑



あたらしい世界と
出会う場所

info. 座・高円寺 所在地/高円寺北2-1-2

「座・高円寺」の楽しみ方を教えてください!

子どもたちの目で 子どもたちと一緒に

「絵本の旅」「みんなの作業場」(毎週末)「みんなのリトル高円寺」(5月)「世界をみよう!」(7月)「劇場へいこう!」(9月、10月)ほか、年間を通して子どもたちと一緒にたくさんの活動に取り組んでいます。

敷居はありません まちなかの居場所です

カフェ「アンリ・ファール」(年中無休)「ギャラリー・アソビバ」(月1回展示替え)「阿波おどり光+」(月1回)「座の市」(毎月第3土)「本の楽市」(年2回)など、いつでも気軽にお立ち寄りください。



座・高円寺芸術監督、劇作家、演出家 佐藤 信さん

アニメのまち杉並

多くのアニメ制作会社があり、時にはアニメの舞台ともなっていることから、杉並は「アニメのまち」、「アニメの聖地」などと呼ばれています。

歩いてみよう



アニメ制作体験

自分でアニメを作ってみることで、アニメへの理解が深まります。



東京工芸大学 杉並アニメーションミュージアム

日本のアニメーションの歴史を学び、体験できる施設です。アニメに声を吹き込んだり、パラパラアニメを作ったり、参加型の展示も多数。さまざまな形でアニメを楽しむことができます。



© 鈴木伸一



info. 東京工芸大学
杉並アニメーションミュージアム
※平成30年9月より、
ネーミングライツ協定を締結
所在地/上荻3-29-5杉並会館3階
入館料/無料

地域密着のオーケストラ

日本フィルハーモニー交響楽団

コンサートだけでなく、リハーサルの様子を公開したり、学校や施設などへ出張もしています。

杉並公会堂

クラシックコンサートに最適な音響環境を備え、日本フィルハーモニー交響楽団の本拠地としてその存在をアピールしています。

info. 所在地/上荻1-23-15



日本フィルハーモニー交響楽団は、平成6年に区と友好提携を結び、約30年にわたり、地域の皆さんの身近なオーケストラとして活動しています。

聴きに行こう

まだまだ! 語り継ぎたいストーリー

PICKUP!

アンティークのまち西荻窪

西荻窪には古道具やアンティークを扱う店が60以上もあり、最近では「アンティークのまち」と呼ばれています。中心となっているのは、その名も骨董通り。国内・海外の幅広い雑貨に出会うことができます。「西荻骨董好きまつり」は約20年の歴史があり、毎年春と秋に開催されています。



古き良きモノを探しに出掛けてみてください!



西荻骨董好きまつり
築90年ほどの歴史ある建物に、骨董品がずらりと並びます。
開催日/毎年春・秋 開催場所/井荻会館

日本のロボットアニメの
金字塔の姿が



駅でガンダムがお出迎え

『機動戦士ガンダム』で有名なアニメ制作会社「サンライズ」がかつて社屋を構えていたことから、駅前にガンダムのモニュメントが設置されています。

info. 『機動戦士ガンダム』モニュメント
所在地/上井草駅前(上井草3-32-1)

© 創通・サンライズ



1 蚕糸の森公園の大滝

大滝のマイナスイオンを浴びて、至高のひとつときを過ごせる、リフレッシュできる場所です。
(植松喜美子さん)



2 杉並公会堂

荻窪はクラシック音楽のまち。私もここで素晴らしい音楽に出会えました。公会堂は杉並区のシンボルです。
(山川ハル子さん)



3 自然豊かな公園 (大田黒公園)

住宅街の中に溶け込む自然豊かな公園。家族とゆっくり過ごすのにちょうど良いです。
(舛田貴司さん)



4 二枚橋から見た済美山

二枚橋から見える済美山がお気に入りです。春になると若葉萌える新緑と空の青さに心を奪われます。
(安住一成さん)



5 井草どんどやき

現在は正月の子ども行事として八成小学校の校庭で行われている伝統行事。将来に引き継いでほしいです。
(井草どんどやき実行委員会)



6 荻窪の地名となった「荻」

荻保存会が杉並区の協力のもと、自生の荻にこだわり、大切に株分けして「荻」を伝えています。
(松葉薫さん)



すぎなみ FAVORITE!

私のおすすめ!

「未来に語り継ぎたい」「皆と分かち合いたい」…
皆さんの気に入りのスポットやおすすめのイベントなどを募集しました。
たくさんのご応募、ありがとうございました!



7 高井戸囃子

杉並区登録無形民俗文化財に登録されている上高井戸の伝統芸能。後世に残せるよう練習にいそんでいます。
(嶋田清孝さん)



8 子どもと安心して暮らせるまち

いつでも出掛けられる児童館や水遊びできる公園。母になって、改めて居心地の良さを感じました。
(なみすけのともだちさん)



9 善福寺川から見た済美公園の黄金色のイチョウ

秋から冬にかけて、街灯に照らされ黄金色に光るイチョウがとてもきれいで思わず立ち止まるほどです。
(テチュさん)



10 都立善福寺公園

数多くの野鳥が生息する心休まる公園です。平成18年にはコハクチョウが来てくれました。
(西村眞一さん)



11 西荻窪の坂の上のけやき公園

仕事でクタクタの時に大きな木の公園に出会い、悠然と立つケヤキの木は、疲れていた私の心に勇気をくれました。
(スラボンパーさん)



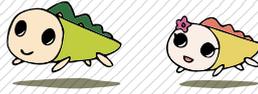
12 すぎなみ舞祭

毎年この日のために一生懸命練習を重ねてきた子どもたちの姿に心を奪われます。
(ゆきさん)



13 すぎ丸バス

のんびりとしたローカル路線ですが、安くて便利。その車窓からは四季を感じます。
(杉坊さん)



未来に継ぐ杉並 杉並区基本構想

基本構想とは？

基本構想は、杉並区の将来の姿と、進むべき方向性を描くものであり、区の近未来に向けた道筋を指し示す「羅針盤」とも言えるものです。
区と区民はもちろん、地域団体や民間事業者等を含めた、杉並区に関わるすべての皆さんとともに将来を展望し、共有する構想として策定しました。

みどり豊かな
住まいのみやこ

基本構想に掲げる区が目指すまちの姿
「みどり豊かな 住まいのみやこ」（新キャッチフレーズ）のロゴマークができました。

基本構想を貫く3つの基本的理念

認め合い 支え合う

様々な価値観を互いに認め合い、支え-支えられる地域社会をつくっていくことにより、地域で暮らす人たちが、誰一人として差別されず、取り残されない社会にしていきます。「人生100年時代」を見据え、すべての区民が自らの人生を豊かに生きていくことができる社会を築いていきます。

安全・安心のまち つながりで築く

首都直下地震や、気候変動に伴う大規模な自然災害に対応し、誰もが安全・安心に暮らし続けることができる環境を築くために、まちのつながり、人のつながりを大切にします。区民、団体、企業、行政を含むこのまちに関わるすべてが主体となり、力を合わせて、まちの将来を築いていきます。

次世代を育み 引き継ぐ

杉並の次代を担う子どもを地域社会全体で育てていきます。暮らしの基盤である、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくため、地球規模の視野に立って一人ひとりが行動します。わがまちの歴史を知り、まちに根付く文化や遺産、自治の歴史を継承し、このまちに誇りを感じながら暮らす人々を増やします。

基本構想（全文・冊子・動画）はこちら



防災・防犯

みんなでつくる、災害に強く、犯罪を生まないまち

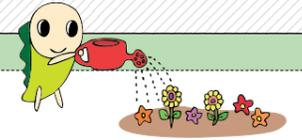
様々な災害から区民の生命や大切な財産を守り、犯罪を生まない安全なまちを築いていく必要があります。区民一人ひとりが高い防災・防犯意識を持ち、みんなで支え合い、誰もが安心して住み続けられるまちを目指します。

取組の方向性

- ① 今まで経験したことのない災害を想定し、復興に備えた防災・減災の取組を進める
- ② みんなで支え合い、いのちを守り、暮らしを続けられるまちをつくる
- ③ 犯罪が起こりにくい、犯罪を生まないまちをつくる



環境・みどり



気候危機に立ち向かい、みどりあふれる良好な環境を将来につなぐまち

近年、「気候変動」に起因するとされる深刻な自然災害が多発しており、今や「気候危機」に直面しているといわれています。気候変動対策を含む環境施策の一層の推進を図ることは喫緊の課題となっています。世界的な課題である気候危機への対応のみならず、様々な環境問題に地域全体で取り組むことで、持続可能で質の高い、みどりあふれる良好な環境を将来世代に引き継いでいくことができるまちを目指します。

取組の方向性

- ① 気候危機に立ち向かうため、気候変動対策を推進する
- ② 資源を大切にすまちをつくる
- ③ みどりや水辺を育み、自然と人の営みが共存できるまちづくりを進める
- ④ 区民一人ひとりが環境への負荷を低減させる取組や自然との共生に向けた行動を継続的に実践する



まちづくり・地域産業



多様な魅力と交流が生まれ、にぎわいのある快適なまち

住宅都市としての価値をさらに高めていくためには、暮らしやすく快適で魅力あるまちを創造することが重要です。そのため、駅を中心とした周辺地域にまちの多様な魅力と交流・活力を創出するとともに、地域に根ざした産業を支援し、区民はもとより、来街者を含めて、誰にとっても居心地がよく、にぎわいがあふれ、出かけたくなるまちを目指します。

取組の方向性

- ① 多様な機能と魅力がある多心型まちづくりを進める
- ② 誰もが気軽に移動できる利便性の高いまちをつくる
- ③ 多様なライフスタイルに対応できる持続可能で柔軟なまちづくりを進める
- ④ 暮らしや環境と調和した地域産業を育み、にぎわいと活力のあるまちをつくる



健康・医療

「人生100年時代」を自分らしく健やかに生きることができるまち

「人生100年時代」を見据え、区民一人ひとりの主体的な取組や、個々の状況に合わせた医療情報の提供等に基づき、効果的な健康づくりを展開する必要があります。健康長寿社会に向かう中、住み慣れた地域で、誰もが自分らしく、いきいきと安心して健康に暮らし続けられるまちを目指します。

取組の方向性

- ① 主体的に健康づくりに取り組み、自分らしくいきいきと住み続けるまちをつくる
- ② 住み慣れた地域で一人ひとりに合った医療が提供されるまちをつくる
- ③ 非常時にも迅速に対応できる地域医療体制をつくる



福祉・地域共生



すべての人が認め合い、支え・支えられながら共生するまち

誰もが分け隔てなく、その持てる能力を発揮しながら地域社会とのつながりを保ち、安心して生活できる環境を整える必要があります。世代の差や障害の有無などに関わらず、支援する側と支援される側の関係を超え、すべての人がお互いに認め合いながら共生できる社会づくりを進めます。

取組の方向性

- 1 互いを理解し、認め合い、支え・支えられながら暮らすことができる社会をつくる
- 2 地域に多様な福祉基盤が整い、自分らしく歳を重ねることができるまちをつくる
- 3 多種多様なつながり方をつくり、孤立させないまちをつくる



学び

共に認め合い、みんなで作る学びのまち

将来を予測することが困難な時代において、自分らしい道を切り拓き「人生100年時代」を豊かに生きるとともに、他者と協働しながら新たな価値を生み出し、より良い地域をつくるためには、誰もが学び続けられる社会が必要です。区民一人ひとりが共に認め合い、希望を実現することの楽しさを実感しながら、学び合い、教え合うことのできるまちを目指します。

取組の方向性

- 1 「人生100年時代」を自分らしくいきいきと生きるための学びを支援する
- 2 学びを通して誰一人取り残されない社会を実現するための条件と環境を整える



子ども

すべての子どもが、自分らしく生きていくことができるまち

次代を担う子どもたちが未来への歩みを進めるためには、多様性が尊重され、持てる力を発揮できる社会にしておく必要があります。子どもたちが、家庭や地域でその権利を守られ、様々な経験を通して未来をつくる力を育むまち、子どもと家庭を地域社会全体で支えるまちを目指します。

取組の方向性

- 1 子どもの権利を大切に、子どもが主人公となるような取組を進める
- 2 子どもの個性に応じた育ちを社会全体で支援する
- 3 安心して子どもを産み、育てられる環境をつくる



文化・スポーツ

文化を育み継承し、スポーツに親しむことのできるまち

生涯を通じて文化・スポーツに親しむことで、日々の生活の活力と豊かさを実感することができる社会づくりが必要です。そのため、子どもから高齢者まで障害の有無等に関わらず、誰もが気軽に文化・スポーツに触れることができ、それらの活動が多世代交流や健康づくり・仲間づくりにもつながるまちを目指します。

取組の方向性

- 1 多様な文化・芸術の振興と多文化交流を推進する
- 2 歴史的な文化資産を次世代に継承する
- 3 誰もがスポーツに親しむことのできる環境づくりを進める



すぎなみPROFILE

杉並区には、約3万年前から人々が住んでいたといわれています。大正12年の関東大震災以降、新たな住居を求めて都市部の人々が移り住み、急速に住宅化が進みました。そして昭和7年10月1日、杉並町、和田堀町、井荻町、高井戸町が合併し、杉並区が誕生したのです。



区名の由来

杉並区の地名の起りは、江戸時代のはじめ、成宗・田端両村の領主であった岡部氏が、領地の境界の印として、青梅街道に沿って杉並木を植えたことに始まります。その後、杉並木はなくなってしまいましたが、「杉並」の名は村名として採用され、町名さらに区名となって現在に至っています。



区の木

区内の緑を“守り、ふやし、育てる”ことを目標に「みどりの条例」を制定（昭和48年11月1日施行）し、区の木を「杉」「アケボノスギ」「サザンカ」の3種に決めました。



杉



アケボノスギ



サザンカ

区の紋章

「杉」を幾何学的に図案化したもので、区制施行20周年を記念し、昭和27年に制定しました。
デザイン＝恩地孝四郎画伯



コミュニケーションマーク

新しい時代にふさわしい魅力あるまちを創造していく姿勢を明らかにするために平成4年に制定しました。

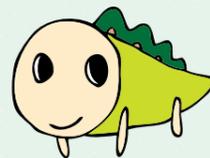


公式アニメキャラクター

平成18年、公募で杉並区の公式アニメキャラクター「なみすけ」が選ばれました。グラフィックデザイナーの五味由梨さんが、「区民に長く愛されるキャラクターになるように」と思いを込めて描いてくださいました。マンホール蓋や小学1年生のランドセルカバーなど、まちのいたるところになみすけが登場しています。

なみすけ

スギナミザウルス島に住んでいた妖精。好きなものはおいしい空気とりんご。さんぽと人間かんさつが趣味。



ナミー



なみすけの妹。頭に花をつけている。お兄ちゃんが大好き。

杉並区歌

作詞／佐藤有弘 補作詞／加藤省吾 作曲／遠藤実 編曲／只野通泰



作曲／遠藤実（名誉区民）

- | | | |
|--|---|---|
| 1. 杉の木立にひめつばき
光りかがやく文化のまちよ
心ふれあう人がいる
笑顔を見かわす人がいる
手を取りあって和を広げ
共に栄える杉並区 | 2. めぐみゆたかに水清く
夢を浮かべて流れる川よ
心あかるい人がいる
幸せ育てる人がいる
みどりのまちに愛の花
薫るわがまち杉並区 | 3. 遠い歴史をいしずえに
明日にはばたく若さと力
心やさしい人がいる
喜びわけあう人がいる
希望の歌を肩組んで
共にうたおう杉並区 |
|--|---|---|



楽譜・音源（歌／橋幸夫）はこちら

宣言

杉並区平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。いま、私たちの手にある平和ゆえの幸せを永遠に希求し、次の世代に伝えよう。ここに杉並区は、核兵器のなくなることを願い、平和都市を宣言する。（昭和63年3月30日制定）

杉並区男女共同参画都市宣言

人は歴史を創り 人は未来を創る 思いやりの心をもとに 男女が 性別を超え 世代を超え 互いに個性や能力を尊重し さまざまな分野に参画し 心豊かな 明日の世代へ夢をつなげ 平等と平和の輪を広げるため 杉並区は ここに「男女共同参画都市」を宣言します（平成9年12月1日制定）



交通安全杉並区宣言

近時、車両運行の急激な増加にともない、区内における交通事情は悪化の一途をたどり、事故は日とともに激増の傾向にあることは、まことに憂慮に堪えないところである。杉並区は人命を尊重し、区民の生命財産をまもり、区内における交通事故の絶滅を期するため、これが施策を推進することを決意し、ここに交通安全都市を宣言する。（昭和40年3月31日制定）

杉並区ゼロカーボンシティ宣言（抜粋）

今、世界では、地球温暖化の影響により、干ばつや豪雨、台風などが強化し、大規模な自然災害が発生しています。もはや「気候変動」ではなく、「気候危機」とも言える事態になっており、これまで以上の取組が求められる喫緊の課題となっています。そこで、杉並区は、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「2050年ゼロカーボンシティ」を目指すことをここに表明し、区民や事業者の皆様とともに脱炭素社会の実現に向けた取組を強力に進めます。温暖化の進行を食い止め、良質な住宅都市として発展してきた杉並区を将来世代に引き継いでいくため、全力で取り組んでいきます。（令和3年11月1日表明）

全文はこちら



データで見るすぎなみ

杉並区をデータで見えてみましょう。どんな人がどんなふうに住んでいるのか、数字の中から浮かんできませんか？じっくり読み込んでみると、意外な姿が見えてくるかもしれません。

人口
570,925人
※令和4年4月1日現在

区成立当時（昭和7年）の人口は146,560人、世帯数は31,583世帯でした

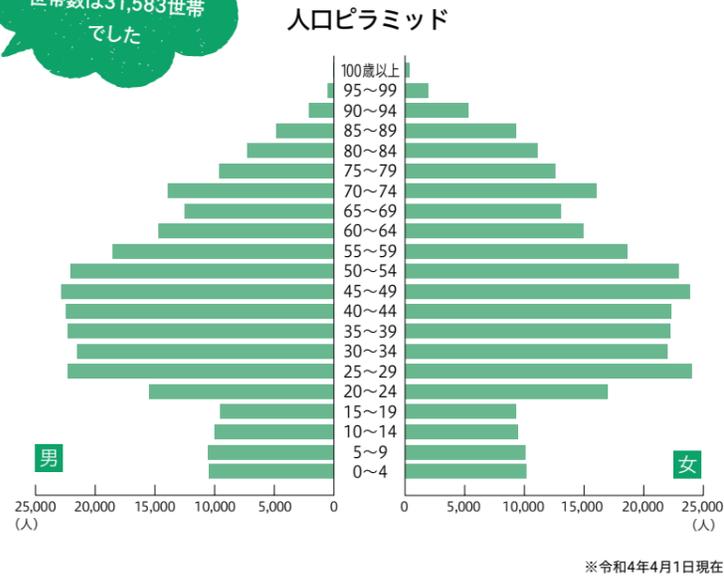
世帯数
325,481世帯
※令和4年4月1日現在

子どもの人口（15歳未満）
60,513人
※令和4年4月1日現在

合計特殊出生率
0.99人
※令和2年現在

認可保育所定員数
14,747人
※令和4年4月1日現在

5年連続で「待機児童ゼロ」を実現しました



区民の定住意向 **86.9%** ※令和3年杉並区民意向調査

住みよいと思う **96.3%** ※令和3年杉並区民意向調査



外国人人口
15,031人

- 1位 中国 4,805人
 - 2位 韓国 2,277人
 - 3位 ネパール 1,923人
 - 4位 ベトナム 1,214人
 - 5位 台湾 740人
- ※令和4年4月1日現在

樹木本数
35,914本

- 1位 サクラ 5,945本
 - 2位 ケヤキ 5,373本
 - 3位 イチョウ 3,499本
- ※平成29年度杉並区みどりの実態調査

公園数
334カ所
※令和4年4月1日現在

一人1日当たりのごみ
479g/日
※令和2年度

交流自治体

杉並区では、国内10自治体、海外3都市と友好関係にあります。経済・観光・文化・スポーツ・災害支援など、幅広い分野で相互支援をしています。

北海道名寄市

米・もち米のほか、アスパラガスやジャガイモなどの農産物が特産です。夏はひまわり畑が広がり、冬はダイヤモンドダストが見られます。区内の小学生が名寄市を訪れ、豊かな自然を体験する交流事業を実施しています。

福島県北塩原村

夏には登山客、冬にはスキー客が多く訪れます。松原湖、五色沼など豊かな自然に恵まれ、四季を通じて楽しめる日本有数の観光地です。区民が現地での宿泊時などに割引を受けられる「まるごと保養地協定」を結んでいます。

福島県南相馬市

国指定重要無形民俗文化財の相馬野馬追は、一千有余年の歴史を誇る伝統行事です。また、北東海岸は全国有数のサーフスポットとして有名です。東日本大震災の復興支援のため区職員を平成23年から派遣しています。

新潟県小千谷市

浅原神社例大祭（片貝まつり）の花火大会は、世界一大きい四尺玉の花火が上がることで有名です。牛の角突きや錦鯉でも広く知られています。井草にある小千谷学生寮の敷地内で、毎月1回物産展が開催されています。

群馬県東吾妻町

関東の耶馬溪と称される吾妻渓谷をはじめ、日本名水百選の一つ箱根湧水など豊かな自然に恵まれています。区と東吾妻町の小学生が相互に訪れ、生活や文化を体験する交流事業を実施しています。

東京都青梅市

金剛寺、塩船観音寺、御岳神社、吉野梅郷があり、西部は秩父多摩甲斐国立公園に属しています。区民・市民限定で行われる「青梅市文化財ハイキング」や、共同企画「森林ボランティア育成講座」を実施しています。



東京都武蔵野市

買い物客でにぎわう吉祥寺、そして閑静な住宅地と非常に恵まれた環境により、「住んでみたいまち」ランキングで毎回、上位に登場する都市です。隣接する自治体として災害時に相互に支援する協定を締結しています。

山梨県忍野村

富士山麓の標高約940メートルに位置する高原の盆地で、湧水で有名な忍野八海があります。忍野村から見る富士山は、最も美しいと言われており、毎年フォトコンテストの入賞作品を区役所区民ギャラリーで展示しています。

静岡県南伊豆町

伊豆半島の最南端に位置し、温泉に恵まれ、弓ヶ浜など海岸沿いの景観を堪能できる景勝地です。全国初となる自治体間連携による特別養護老人ホーム「エクレス南伊豆」では多くの区民が生活しています。

東京都小笠原村

世界でも有数の透明度を誇る海には年間を通してイルカやクジラが来遊し、亜熱帯の山には固有の動植物が多数生息しています。区内の中学生が小笠原村を訪れ、豊かな自然を体験する交流事業を実施しています。

国際交流

- オーストラリア連邦 ニューサウスウェールズ州ウィロビー市
- 大韓民国ソウル特別市瑞草区
- 台湾台北市

未来へ
継ぐ
すぎなみ
物語



杉並区区制施行90周年記念誌

令和4年9月発行

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 TEL. 3312-2111(代表)
区ホームページ： <https://www.city.suginami.tokyo.jp/>

編集・発行：杉並区総務部広報課

登録印刷物番号 04-0006
